

お詫びと訂正

拙論「からくり人形の反乱 ——ペレーヴィン作品における『ヒエラルキーの崩壊』のテーマ——」（『スラヴ研究』No. 66 掲載）に関し、文中に誤記がある旨、読者より指摘を受けました。具体的には以下の箇所です。

訂正箇所（本文）

p. 4. 誤「批評家 M・ヤンポリスキー」→ 正「批評家 M・リポヴェツキー」

p. 5., p. 9., p. 13., p. 21. 誤「ヤンポリスキー」→ 正「リポヴェツキー」

訂正箇所（注）

注 8 (p. 5.) 誤「Ямпольский M.」→ 正「Липовецкий M.」

注 9 (p. 5.)、注 24 (p. 9.)、注 41 (p. 13.)、注 63 (p. 21.) 誤「Ямпольский」
→ 正「Липовецкий」

注 63 (p. 21.) 誤「ヤンポリスキー」→ 正「リポヴェツキー」

また注 8、9、24、41、63 につき誤「Паралогия」→ 正「Паралогии」

以上からお分かりいただけますように、本論文の主要参考文献の 1 つである『パラロジエー』（原題 «Паралогии: Трансформации (пост)модернистского дискурса в русской культуре 1920-2000-х годов». М., 2008.）の著者マルク・リポヴェツキー Марк Липовецкий を、まったく別の批評家であるミハイル・ヤンポリスキー Михаил Ямпольский と取り違えて執筆をおこない、そのまま発表に至ったという経緯です。完全なる思い込みと注意不足に起因する誤りですが、資料の引用の正確性が論文の信頼性に直結する人文学分野の研究者として恥ずべき間違いと認識しております。

ただ一方、筆者所有のリポヴェツキーの当該書籍に再度当たり、引用文そのものには間違いがないと確認済みであること、今回のケースが著者名の取り違えという、論旨には直接影響がないと見なしうるミスであったこと等に鑑み、誠に勝手ながら、誤記に関する追記をしたうえで論文自体は公開を続けたいと考えております。ご寛恕のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2019 年 10 月 27 日

笹山 啓

筑波大学人文社会系非常勤研究員